

## 第6回広陵町地域公共交通活性化協議会 議事要旨

日 時：平成26年12月1日（月）14：00～15：30

場 所：広陵町役場3階大会議室

出席者：山村会長、青木委員、巽委員、東委員、山本委員（代理：稲留様）、村上委員（代理：白柳様）、大庭委員、大西委員（代理：橋様）、森本委員（代理：本間様）、川邊委員（代理：米田様）、吾妻委員、吉崎委員、島田委員、古田委員、奥谷委員

### 1 開会進行（事務局）

### 2 会長あいさつ

みなさんこんにちは。早いもので、師走を迎えました。お忙しい中、本日は地域公共交通活性化協議会にご出席いただき、ありがとうございます。

本協議会は本年3月に第4回の協議会を、7月に第5回の協議会を開催し、現在運行をいたしております、広陵元気号の在り方を含め、広陵町の公共交通の在り方全体について検討を重ねています。

今回は、アンケート調査の結果に基づき、広陵町生活交通ネットワーク計画案をまとめ、ご提示申し上げますので、議論をいただきたく存じます。只今運行しております広陵元気号は、まだまだ不十分な所もございます。しかしながら、年間2万人を超える利用をしていただいております。利用者の声としましては、もっと便利にして欲しいという意見も多くございます。また、利用したくてもバス停まで行けないので何とかして欲しいという声も頂いております。ますます高齢化が進んでまいりますので、公共交通の必要性が今後とも高まっていくものと考えております。

広陵町にとって公共交通をどのようにすべきか、忌憚のないご意見を賜りたく、よろしくお願い申し上げます。また、奈良交通の路線バス、竹取公園東から高田間の路線維持・改善方策について、ほぼ確定してまいりましたので、そのご報告も申し上げます。慎重にご審議賜りますよう、お願い申し上げます。ご挨拶とさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

### 4 議題

#### (1) アンケート調査の結果について

##### 【事務局説明】

資料1、資料2の説明

##### 【質疑応答】

○委員

今回アンケートの結果を拝見いたしますと、回答率が 48 パーセント、自由意見も多く、住民の方の公共交通に関する関心が非常に高いと感じました。また、元気号の有料化にも理解を示され、利用促進の設問では費用負担を減らして維持すると、財政に関しても住民の方、理解が深いなど感じております。やはり利用促進というのが最大のキーポイントなのかなというふうに感じました。事業者さん、行政の方に頼って、補助金に頼って運行を維持するということは、広陵町に限ったことではないですが、限界がございますので、今後進めていくにあたってはいかに住民の方を巻き込んでいくかということがポイントになるかと思いました。将来乗るかもしれないから維持して欲しいとか、そういうことではなかなか維持が難しいと考えておりますので、この会議の場を通じて、便利にしていくということと、住民の方にどうアピールするか、どう利用促進を進めていくかという事を中心にお話された方が良いのではないかと思います。

○会長

回収率、私は低いのかなと思いました。6 割ぐらい回答してもらえらるともっといいのかなと思いますが、なかなかそうはいかないですね。

(2) 広陵町生活交通ネットワーク計画の骨子（案）について

【事務局説明】

資料 3 の説明

【質疑応答】

1. 課題の整理について

○委員

- ・町民のニーズにどこまでこたえるか、費用対効果はどうなのか。路線バスが廃止されたのは、乗客数の減少による。それに取り掛かることで、行政がどこまで税金を使ってフォローをしていくのかという、この兼ね合いが難しいと思います。税金を使うのですから、調和をさせて費用対効果をまず考え、例えばタクシー業界や三大公共交通全てのお力も借りながら、町民のニーズにできるだけ答えていって欲しい。
- ・議会でも現在勉強している最中だが、的を射た仕組みとして、周辺市町村との組み合わせ・協力も現実的になる可能性がある。特に国保中央病院は 4 町あるわけですから、広陵町単独で大きなお金をかけてやるよりは良い。
- ・定時性路線の路線バスと、デマンド交通について、どの人とどう案を寄せ合っていくかということが問題。私は並行になるのだろうと考える。当局ではどの程度調査をされているのか。

○事務局

- ・P18 の広陵元気号の費用負担実践に示すように、現在バス 2 台の運行で、1840 万円（年間）。後ほど課長のほうからご説明をさせて頂くが、これから、奈良交通バスが 10 月 1 日からの現状維持をするということで、負担を求められている。

町民一人あたり公共交通にいくらかけていったらいいのかという議論になると思う。

- ・デマンドについては、アンケートから住民のニーズを確認したという結果がある。近隣市町のデマンドへの取り組み状況についても、良い悪い両方の意見がある。これについても、財政面も考慮し検討していきたいと考えている。アンケート調査では、過半数以上が有料化は致し方ないというデータが出ているので、これも参考にして議論をしていきたいと考えている。
- ・香芝市については、公共バスとデマンドが併用されている。香芝市には駅が多く、広陵町には駅が1つしかないという状況ではあるが、香芝のバスは公共施設間を回るバスのみ、現在無料で運行されている（年間12万人ほど利用）。デマンドタクシーも取り入れられ、登録は増え続けている。予算は、公共交通・デマンドタクシーを含み1億円程度。だいたい半々ぐらいで投下している。その中で、広陵町が財政の中でどのくらい負担できるかを検討しなければならないと考えている。

#### ○委員

- ・広陵町は広陵町の身の丈にあう進め方があると思うが、周辺市町村との連携をうまくはかり、大きな視点でどのような接続・ネットワークが必要か検討頂き、経費の削減に繋げて欲しい。

#### ○事務局

- ・近隣、大和高田市の希望号と広陵町の元気号で乗継ができるような連携の話も高田市長よりいただいているが、具体的にはまだ決まっていない。香芝市ではデマンド交通を連携して運行できないかという話があり研究を行っているが、難しい面がある。
- ・デマンド交通が乗車人員一人当たりどのくらいの経費がかかっているのかは、年度途中のためまだ分からない。

#### ○委員

- ・もともと、デマンド交通は、車両が不足している場所で、みんなで乗りあうために予約して乗りあうもの。広陵町については一定のタクシー事業者もあるので、デマンド交通の必要性については慎重に考える必要がある。「ただ単に安いタクシー」と捉えられれば、財政的にいくらお金があっても足りない。やるのであれば、どのような乗りあいが考えられるか工夫しないと、相当なお金がかかり持続できない、あるいはタクシー事業者を圧迫させてしまうことになる。そのあたりも含めて慎重に検討する必要がある。
- ・香芝市の例はバス停が駅から遠いところに限定して実施している。人口が比較的集中しているところや駅に近いところでは、財政を圧迫する恐れがある。
- ・相互乗り入れは、県南部で議論が進んでいる。奈良県は市町村合併が比較的進んでいないので、青木委員がおっしゃるように連携は避けて通れないのではないかな。

- ・生活交通ネットワーク計画を示して頂いているが、現在、国の方針では、まちづくりや観光振興と組み合わせて計画的に交通を考えていただきたいということがある。先ほど財政の話がありましたが、そのような取組に対して頑張っているところに支援するという方向性なので、それに沿った形での議論を。

○事務局

- ・今の高田イオンモールの町負担について協議させていただいているなかで、今後、事務者レベルでどのような連携ができるのかということを定期的に会議していくことは確認できている。

○会長

- ・軽自動車活用のデマンドという話がありますが、制度的にはどのような問題があるのか。

○委員

- ・法律的な話をすると、地域公共交通会議で合意に至れば許認可上は許可が出る。ただ、国の考え方として示されているのは、定時定路線運行を基本に据えるということ。既存の事業者が撤退しているものをすべて町が負担となると本末転倒。あくまで民間事業者がカバーしきれない部分を行政が負担するのが基本。

○委員

- ・路線バスが撤退する中で施策としてどうすればよいのか。

○委員

- ・規制緩和の流れで参入も撤退も自由になっており、国全体として路線バスの撤退はここ 10 年で顕著になっている。国全体として厳しい状況ではあるが、どういった地域を支援するのかということで、計画的なまちづくりに取り組んでいる地域を支援していく方向で、予算を組んでいる。無料バスは一切国の支援を受けられないが、有償化については一定の補助がある。有償化は避けて通れないのではないかと。国だけでなく、県も同じ方向性である。

○会長

- ・竹取公園・イオンモール線について、国や県の支援をいただき助かっている。バス会社としては、同じ路線のまま運行を続けられないのはやむを得ない。地域の存続をしていくには、一定の支援が必要になる。
- ・まちづくりの観点については、住みよいまちをめざし、乗って頂く人を増やし、町に住んで頂くという面もあるので、一定の負担はやむを得ない。どこまでの負担が必要になるか、業界のすみ分けなども踏まえた上での議論が必要。

○委員

- ・広陵元気号の有料化については、日頃から声を聞くだけでなく、アンケート結果で一定のニーズがあることがわかる。是非有料化できるようお願いしたい。

○会長

- ・端々で、議会にかけず有料化した結果決算でもめたケースもあるが、協議会で運賃を決めたのち、議会にあげる必要があるのか、県の方いかがでしょうか。

○委員

- ・ある程度、実証運行（試行）し、最終的に協議会で諮るという方法も考えられる。

○会長

- ・住民にも有料化について宣伝をし続けている。便利に運行できるので、有料化は致し方ないと思っていただいていると思う。

## 2. 計画の推進について

○会長

- ・五位堂駅までは、結ばないと書いているが、計画として問題はないか。特にルート案1・2・3についてご意見をお願いします

○委員

- ・資料3・P17の乗降客数を見てみると、主な拠点として広陵町役場やさわやかホール、真美ヶ丘センター、中央公民館といったところは概ね良案で結ばれていると思う。イズミヤは比較的乗降客数が多くみられるが、今までの2系統（東西線）から1系統になるので、若干不便になるのでは。竹取線がイズミヤも通ると聞いているのでその辺も併せて考えていただきたい。

○事務局

- ・現行の広陵元気号のルートでは無償で運行している関係で、大和高田駅からイズミヤへのルートである（南北線のほうが便利だが）。今現在はあまり高齢者の利用者がいないそのルートに税金を投入するのはいかがかという考え方もある。現状では、大和高田駅からイズミヤへは行かずに迂回をしている。東西線が運行する中でイズミヤは最も大きなスーパーである。ルート案1ではイズミヤを通っているが、さわやかホールや役場での乗り換えや、時刻の調整等検討したい。
- ・真美ヶ丘にあるエコール・マミ、寺戸南口にカインズホームの大型複合施設（4ha程）の出店計画もあり、それらの状況も含めて検討していきたい。
- ・奈良交通バス路線では、朝の通勤・通学で約20人が大和高田駅まで利用している。大和高田駅から竹取公園までの利用については、朝の通勤の方々が降りられる。コミュニティバスについては、若い方が塾などで利用している。アンケートでは、買い物へのニーズが高まっている。
- ・オークワ前に、新規大型店舗が出店する予定。広陵町東側は店舗が少なく、病院があり、車の利用が高い。
- ・弱者に対しては、福祉タクシーの利用を高めていくべきではないかと考えられる。

○会長

- ・元気号を利用し、帰りは乗ることができなかつたために、多めに買い物をして店の方に送ってもらったとの声がある。業界としては考えられないことだが、タクシーが迎えに行けないという例も聞いたことがある。タクシーチケットを配布するという町の事例も聞いたことがある。

○委員

- ・従来はタクシーとバスをすみ分けし、互いに活性化するようにしていたが、デマンドタクシーが登場してから、デマンドタクシーと既存のタクシーのすみ分けが問題になっている。それぞれ担うべき輸送があり、全域的なニーズは、本来はタクシーが担うべきこと。「バスは利用したいが遠いからタクシーを利用したい」というアンケート結果もあった。そういったところをフィーダーの形で行う。「近くても坂道を登れない」などのニーズをタクシーは担うべきと思っている。タクシー会社は業界の全体的な活性化を図りつつ、地域は町全体の公共交通をまちづくりとともに計画的考えるべきで、限定的な形でのデマンド導入なども検討すべき。

○委員

- ・まんのう町に視察に行ったが、タクシー会社と連携を図り、デマンドで淘汰される分はタクシー会社がフォローし、住民はそれなりの負担をするという共存共栄の形であった。互いによいところを組み合わせることができないのではないかな。

○委員

- ・今まではすみ分けが議論の中心だったが、これからはコラボレーションが重要になる。タクシーも、バスも、鉄道も活性化する方策があればベター。

○事務局

- ・広陵元気号を再生するにあたり、乗降客数が多くないバス停をどうするかということが課題。元気号が利用しにくいから乗られないという現状もあり、形態を変えても乗って頂けない可能性もある。

○会長

- ・今回はルート1・2・3を決めるところまで解決するのではないので、骨子案(冊子)の内容でよいかどうかを、全体的にまとめたいと思います。

○事務局

- ・今回はルート1・2・3を提案させて頂いているが、最終的なネットワーク計画では、ルートを1本に絞り、運行計画を策定していきたい。スケジュールを整理させて頂きますと、広陵元気号については、生活交通ネットワーク計画をH26年度に策定し、H27年度に運行計画の策定に取り掛かりたい。運行ルートの策定とは、運行ルートや運行時間の策定、バスの車種、運行ルートに対する需要の予測などを実施していきたい。運行計画が決まれば、車両代やバス停・案内板の改修費を補正予算で提案したい。H28年4月から試行運行に入っていくことができればと思っている。その後、国の補助金等も申請しながら、H28年の10月には本格運行に持っていきたいと考えている。

○会長

- ・バス停別の乗車人員が100人切っているところを、デマンドで救済する方法も出てきますし、タクシーチケットを配布して助成するという事も考えられます。できるだけ効率的にやるのがよいと考えます。

○委員

- ・利用者の年齢層などは分かりますか。高齢者が多い場合、介護タクシーも利用できますし、その他の対応も考えられると思います。

○事務局

- ・広陵元気号の利用者アンケートでは、利用者は高齢者（60歳以上）が多く、高齢者の中でも女性が多い。百済や広瀬は高齢者が特に多い。

○委員

- ・同じ人がかなり乗っている可能性がある。ドライバーに尋ね、利用者を精査したほうが良い。それを踏まえた、有効な計画につなげるべき。

○事務局

- ・青木委員がおっしゃるように、常日頃ドライバーに確認していると、乗る人が固定化されているのが現状。事務局のPR不足も原因の一つである。アンケート結果では、現在は無料だから乗っているが、有料化されれば乗らないという方もいる。広陵元気号の調査は毎日おこなっており、乗車人員や年齢層等は正確に把握している。

○会長

- ・百済から真美ヶ丘へ行く人も「こんな不便なバスに変えて」と怒られていましたけれども、これから見たらあまり問題はありませんね。とりあえずはこの骨子案で承認頂けるでしょうか。

○一同

はい。

○会長

それではこれで、広陵町生活交通ネットワーク計画案の骨子案については承認頂いたということにさせていただきます。

#### 4 その他

奈良交通路線バス（高田イオンモール・高田新家線）への町負担について

#### 【事務局報告】

#### 5 閉会

- ・1月頃に開催することを約して散会